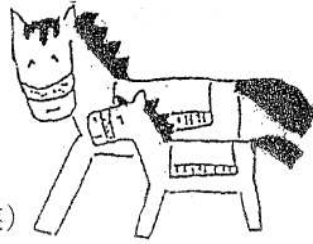


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポッキリ、ポッキリと



21年 5月 NO. 174

(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～

## 5月の主な活動

～お気軽にどうぞ～

5月 1日	金	こどもの日のお祝いどうぞ! 10:00～11:00	保育園の行事に参加しませんか?
5月 8日	金	おはなしの会において 10:30～11:30	毎月楽しい紙芝居、手あそび 絵本読みがあります。
5月 9日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って あそびましょう。
5月 16日	土	実用筆書き講座 14:00～16:00	初歩から始めています。どなたでも どうぞ。(託児予約要)
5月 23日	土	木工教室 14:00～16:00	木工の専門家に相談しながら 手づくり作品を増やしましょう。
5月 27日	水	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	保育士による手あそびやリトミックを します。
5月 29日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	小児科園医師にゆっくり 相談できます。(予約要)
5月 30日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。

・毎火曜日 園庭開放(13時～16時)  
・上記の活動日以外は13時～18時まで地域開放します  
ので、親子でご来園下さい。  
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00  
しつけや子育てについての悩み、  
保育園生活、入園・見学について  
の相談もどうぞ。

金子みすゞ童謡全集5より

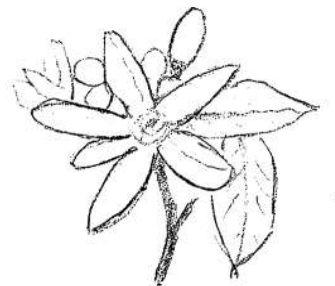
壁のなか、  
倉のなか、  
誰かの笑う声がして、  
思い出しても泣いじゃくる、  
そのたびに、  
橙の、花のにおいがして来ます。

壁の穴から  
つづいてる、  
あり  
蟻をみるのも飽きました。

いつからか、  
すねてるに、  
誰も探しに来てくれず、

泣いたじゃくり  
すのたびに、  
橙の花のにおいがして来ます。

だいたい  
橙の花



当園でも、この4月に入園し、初めて集団の中に入っての生活もやっと慣れてきて、親子共に笑顔が見られるようになりました。今月は、保育現場で働く保育者や職員のさまざまな悩みのカウンセリングをされている富田富士也先生の「もう保育で悩まない」（ハート出版）という著書からご紹介しましょう。

保育現場での悩みやよろこびについて保護者の方にも知っていただくことは、共同保育者としてとても大切なことだと考えます。



## 園で働く職員からのお手紙紹介



### その1 M. M (56歳) 保育歴36年

私は幼児期とっても引っ込み思案で人前に出て踊ったり、話したり、歌ったりするのがとても苦手な子どもでした。しかし、家に帰るととてもおしゃべりで、いつも三つ年上の姉とケンカばかりしていました。運動よりはどちらかというところ、本を読んだり空想にふけるのが好きな子どもでした。参観日にはいつも母の足にしがみついていた。でも、体格はよく友だちを追いかけたいじわるでないのに、泣かせてしまい、全園児の前で園長先生に叱られた思い出があります。

しかし、その園長先生から知能テストで高得点だったとき、鉛筆削りが上手にできたときに大変褒められたことを覚えています。

もう一人、とても優しく昼寝のときはそっとうちわであおいでくれた先生を今も忘れられません。そういう私なので、保育士になり、また園長にまでなるとは夢にも思っていませんでした。

姉が公立幼稚園教諭になったあとを追いかけて、私も公立幼稚園教諭になり三年すごしました。

そのときの小学校の校長先生園長の教えが、とても心に残っています。

それは、「一クラス30人いれば、1番から30番までいる」。その30番の子どもが幸せにならないといけない、という意味です。

当園にも担当保育士を困らせる女の子がいます。

担当保育士は一生懸命子どもと向き合い、それでも、その一生懸命さゆえにあせり、「無力感」を感じ、悩んでいました。私としては、いつもハツラツとしている優秀な保育士なので少し不安に感じました。そこでアドバイスをし、その子どもにも関わるようになりました。

しかし、あるとき担当保育士から涙ながらに「もうどうしていいか、わからない。しかも、他のクラスが落ち着いているのに、私のクラスは・・・」と比較してしまい、自分の能力を憂えているようでした。また、他の先生が心配してくれ、問題の子を指導介入してくれることが有り難く、また負担になる、とのことでした。

私は最初他人事のように感じていましたが、自分の指導が重荷になっているのを遠回しに伝えてくれていることに気づかされました。自分としては、先生の助けになれば、問題の子どもが落ち着いてくれることを願ってやったつもりでしたが、それが逆に保育士をあせらす原因の一つになっていたことです。思いが「重い」になっていました。一つ保育士から園長として成長させてもらいました。

また、クラスを乱すIちゃんとKちゃんは、私からみてそれぞれわがままで、お互いをライバル視していると感じていました。その最初はわがままだと思って、厳しく接していました。しかし、特にIちゃんは暴れるときをみていると、禁止命令するとパニックになると気づき、担任と話し合いをして落ち着くまで待ち、最後まで話を聴くように心がけました。だいたいパニックを起こすとき、その子は必ずKちゃんとケンカしたあとです。順番に問題を起こし、先

生の取り合いをしているようにも感じました。

あるとき赤ちゃんのときから一緒に過ごしてきた二人に、あと半年で別々の小学校に行くから、お別れしないといけなことを伝えました。すると、いつも困らせる二人は驚いた表情をし、Iちゃんは、「え？みんなで同じ小学校に行くんじゃないの？Kちゃんは同じ小学校に行かないの？」

Kちゃんは、「Iちゃんはいいいね。みんなと同じ小学校行けて、しかもおうちから小学校まで近いから保育園の先生にも会うこともできる。私は離れた小学校に行くから、もうみんなに会えないし、先生にも会えない。」

するとIちゃんは何も言わず、そっと手を伸ばしてKちゃんに手をつなごうと、無言で手を差し伸べました。すると二人は顔を見合わせ、ニコニコしながら手をつなぎ部屋に入ってきました。

その後ろ姿を見たとき、富田先生がよく言われる「人はいつでも晩節（＝晩年）を生きている」という言葉を思い出し、ほほえましくこれからのこの二人に、強く健やかに育ってほしいと胸が熱くなったのを思い出します。

私はそのとき保育士であり園長として、子どもの成長を見守れることのありがたさに感謝し、思わず二人の後ろ姿に手を合わせ「ありがとう」と心の中で唱えていました。子どもにも保育士にも自分自身が園長として育てられているんだと感じたできごとでした。



## その2 MK (73歳) 子どもとかかわって50年

子どもとともに育ってきた半世紀、数多くの子どもたちと出会い、また巣立っていきました。当時保育園で一緒に生活した子どもたちが、今は孫をつれて保育園に足を運んでくださる方々が大勢です。親・子・孫とその循環している中から、過去の保育者になりたての我が身を思い起こしている今日このごろです。

どの子ども本当にかげがえのないすばらしさをもっています。その間、楽しいことのみではなく、苦しさ、情けなさどどん底まで落ち込んだとき、支えてくれたのが子どもたちでした。

保育することは共に育ち合い、人間関係を紡ぎ合うことです。いろいろな人に出会い、そこから互いを理解し合っていくことの大切さを学ばせてもらいながら、日々をすごしています。

先日、卒園児の保護者が訪ねてくださり、娘の作文がある市で特選になったと喜びを伝えてくださいました。そのときの話ですが、私は毎年一月に年長の子どもたちに旅先などからあえて匿名で手紙を送ります。すると子どもからも返信がきます。この保護者の子どものときの匿名は、「ほかほかばあちゃんから」でした。今もその手紙を大切にしているとのことでした。

保護者の母親が言いました。

「今まで、この手紙については気にもとめていませんでしたが、こんなに大切な宝物にしていました」

私は正直そこまで子どもの心の中に、この手紙が大切にされていたとは・・・胸の詰まる思いでした。

これから人間として社会人として生きていく子どもたちと、幼児期にしっかり心に残る関わりをしていくことがいかに重要かと、自分たちの仕事の重さを再認識し、いつまでも心に生き続けられる保育者でありたいと思います。

長く続けさせてもらっているからこそ感謝と子どもたちの今後のすばらしい成長に応援をし続けたいと思います。

3月29日(日)に当園子育て支援センターの「香川みずゞさんの会」主催で矢崎節夫氏講演(みずゞさんのうれしいまなざし)と金子みずゞさんの1人娘さん上村ふさえさんとの対談の会を開きました。210人の定員満席となり、たくさんの感想をいただきました。それをすこしご紹介しましょう。

たくさんの気づきをすることが出来ました。その中でも、人の話を聞くときに、聞いているより何十倍も何百倍も辛いんだと思って聞いてあげること、その人の辛さをこだますることが出来るという話にすごく心が動きました。またこのような会に出席したいです。(20代 女性)

子どもと二人参加させていただきました。矢崎先生のお話、まどみちおの詩、みずゞさんの詩、学校の詩の本にもでるので、聞かせてやりたかったのですが、小さいお子様と遊ぶほうがよかったようで残念でした。

親子で心が温くなる時間を過ごせました。ありがとうございました。とてもいい講演会でした。おばあちゃんも一緒にこれたらよかったのと思いました。子育て・自分育てのヒントもたくさんありました。

(30~40代 女性)

人生ってみんな平等にできているなと思いました。子の誕生日は、親にしてくれた誕生日。なるほど!!

このようなすてきな講演会ありがとうございました。子どもを見て下さったスタッフの皆さま、ありがとうございました。(30~40代 女性)

矢崎先生の本を拝読させていただいたり、CDでみずゞさんの詩を聴かせていただいていたものです。

私は、保育士として子どもたちの側に居ながら、このみずゞさんの感性に感動し、共感し、自分の心の汚れや狭さを気づかされながらいましたが、今日、再び「みずゞさんのうれしいまなざし」を聞いて、とても深い深い人間のすばらしい心を気づかせていただきました。

そして今、初孫を授かり、あの南京玉のすばらしさに涙があふれて止まりませんでした。初孫を授かったこのありがたいことに感謝して、私の南京玉を削っていきたくと思っています。

とてもすばらしい時間をありがとうございました。

(50~60代 女性)

本日、プラネタリウムを観に来て、1階のロビーの展示を見ていましたら、今日、講演があるとのこと、「一期一会」で参加しました。展示の「私と小鳥と鈴と」「大漁」「土と草」海の魚はかわいそうに感動を憶えました。

金子みずゞさん(テル)さんは、ちょっと早く生まれたように思います。そんなことを言ったらキリがありませんが、世代には様々な人が生きてました。人間の生命には限りがありますが、皆様の幸福のためにも、もっと長生きして欲しかったです。祈念します。

みずゞさんはもっと生きたかったと思います。「子どもを残して母は亡く・・・」私の母も早く亡くなりましたが、子どものことを思えば生きるって事は・・・。心は一つ大空の月。

4年ほど前、山口に旅しました。金子みずゞ記念館のパンフレットを岩国駅で観ました。一度、行きたいと思っていました。今日、参加してよかったと思います。合掌 (60代 男性)

みずゞさんの娘さんにお会いでき、本当に嬉しかったです。みずゞさんの詩のファンの一人として、よい機会がつかめました。ふさえさんは、とてもお元気そうで、お話がたくさん聞けて嬉しかったです。

私は、仙崎には2回行きましたので、今日はよけい嬉しいです。

(70代 女性)

